CREATING CUSTOMER SATISFACTION

シーシーエス株式会社

2016年7月期 第3四半期　決算説明

2016年6月8日

会社概要

商号	シーシーエス株式会社
本社所在地	京都府京都市上京区烏丸通下立売上ル桜鶴円町374
代表者	代表執行役社長　各務　嘉郎
設立	1993年10月
資本金	462百万円
従業員数※	連結：231名（141名）　単体：199名（43名）　注：外書き（）内は臨時従業員数
発行済株式総数	普通株式　5,417,829株　（2016年5月13日現在） 注：2016年5月2日にA種優先株式が普通株式への転換された結果、普通株式が1,279,829株増加しています。
株主数	普通株式　2,765名　（2016年1月末現在）
主な連結子会社	CCS America, Inc. / CCS Asia PTE.LTD. / CCS Europe N.V. 東莞鋭視光電科技有限公司（Rsee）
拠点※	国内　10ヵ所　京都本社、生産センター、光技術研究所 東京、名古屋、仙台、本厚木、金沢、守山、淀屋橋 海外　10ヵ所　ボストン、エルパソ、サンノゼ、ベルギー、シンガポール タイ、上海、深圳・東莞・台湾　（主な連結子会社含む）

※ 2016年4月末現在

沿革

1993	10月	シーシーエス株式会社設立
1999	10月	CCS America, Inc.を設立
2000	5月	東京営業所を開設
2003	9月	上海駐在員事務所を開設
2004	9月	RDV(S)PTE LTD社（現 CCS Asia PTE.LTD）を子会社化
	11月	CCS Europe NVを設立
	12月	ジャスダック証券取引所に上場
2007	7月	生産センターを開設
	10月	仙台 テスティングルームを開設
	11月	山口大学と「自然光LED」照明を共同開発
2008	1月	光技術研究所を開設
	3月	深圳駐在事務所を開設
	8月	名古屋営業所を開設
2010	12月	CCS Asia PTE.LTD.バンコク駐在員事務所を開設
2011	5月	CCS-ELUX LIGHTING ENGINEERING PVD.LTD.を設立
2013	10月	台湾駐在員事務所を開設
2014	1月	東莞鋭視光電科技有限公司を設立
		CCS America, Inc.エル・パソ テキサス テスティングルームを開設
	8月	金沢 テスティングルームを開設
		守山 テスティングルームを開設
2015	10月	CCS America, Inc.サンノゼ テスティングルームを開設
		本厚木 テスティングルームを開設
		淀屋橋 テスティングルームを開設
2016	5月	オプテックス株式会社による公開買付けにより同社の子会社となる

（参考）LED開発の歩み

1962年	赤色と黄緑色を開発
1970年代	赤色と黄緑色が実用化
1993年	青色が製品化
1995年	純緑色を開発
	光の三原色がそろう
1996年	白色を開発
現在	発光効率の向上
	高演色性白色の開発

オプテックス株式会社による当社のTOB

TOBの結果、

『**オプテックス株式会社**（証券コード　6914）』が親会社となりました。

同業の『**オプテックス・エフエー株式会社**（証券コード　6661）』が
当社の兄弟会社となりました。

具体的なシナジーについては検討段階でありますが、
オプテックスグループになることで、より一層の企業価値の
向上を図ることができると確信しております。

説明内容

1. 2016年7月期 第3四半期　決算概要

2. 2016年7月期 第3四半期　事業分野別の状況

3. 2016年7月期の成長戦略

4. 参考資料

1．2016年7月期 第3四半期　決算概要

2．2016年7月期 第3四半期　事業分野別の状況

3．2016年7月期の成長戦略

4．参考資料

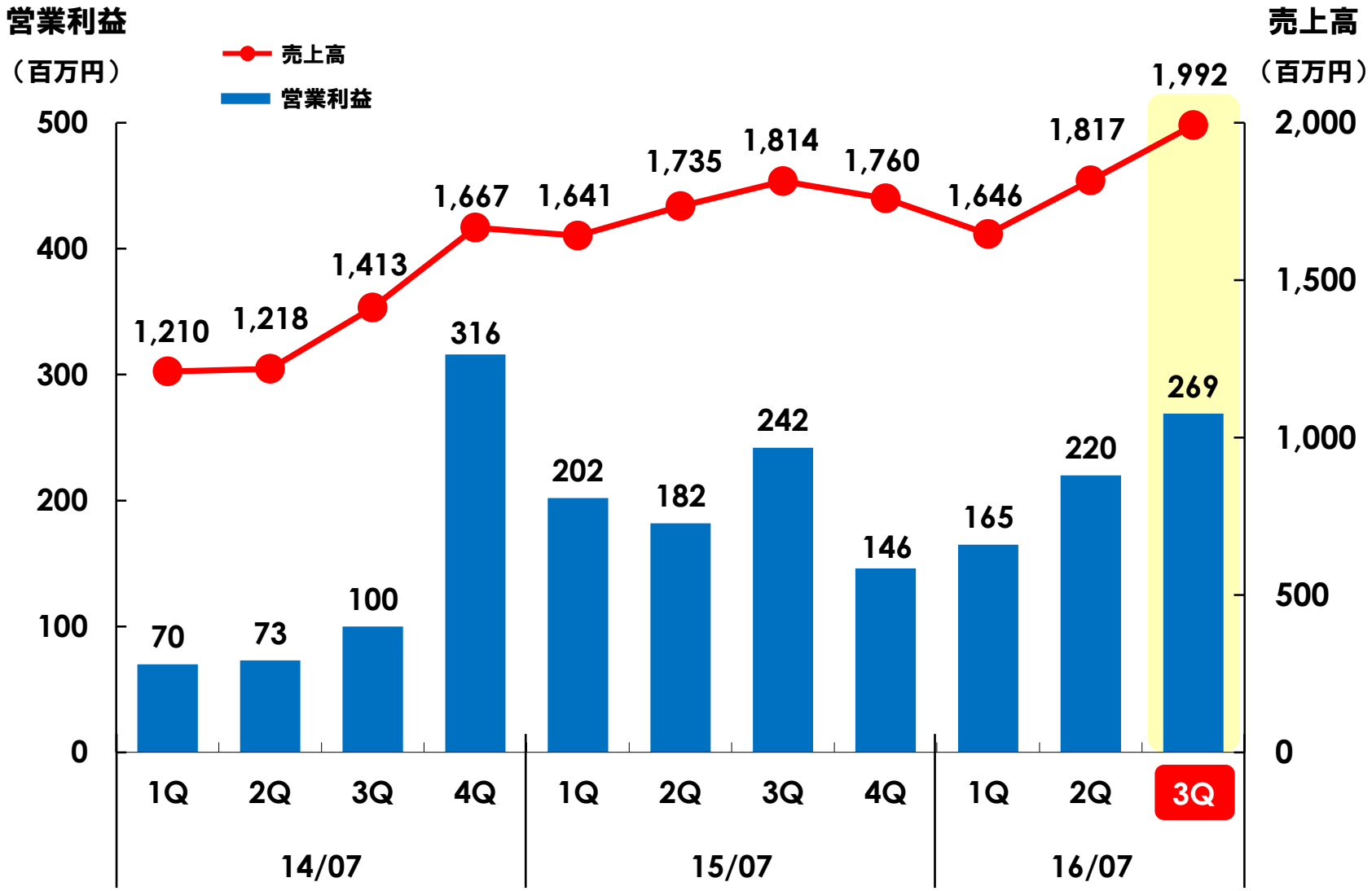
2016年7月期 第3四半期　決算実績

（単位：百万円）

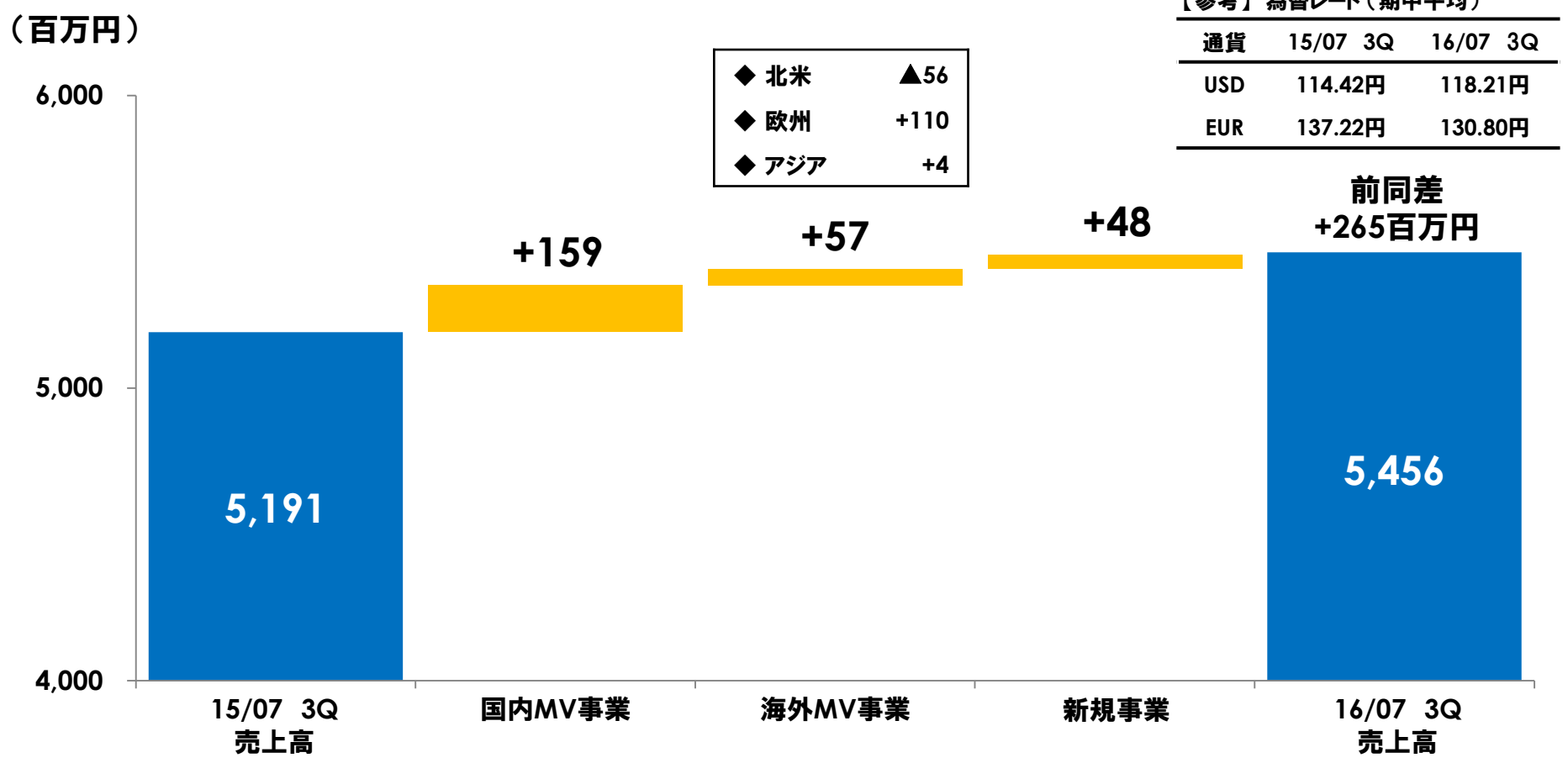
	15/07　3Q		16/07　3Q		前年同期比	
	金額　[A]	売上比	金額 [B]	売上比	[B]-[A]	[B]/[A]-1
売上高	5,191	100.0%	5,456	100.0%	+265	+5.1%
売上総利益	3,058	58.9%	3,190	58.5%	+132	+4.3%
販管費	2,431	46.8%	2,534	46.5%	+103	+4.3%
営業利益	627	12.1%	655	12.0%	+28	+4.6%
経常利益	623	12.0%	625	11.5%	+2	+0.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益	561	10.8%	411	7.5%	▲150	▲26.8%

売上高・営業利益の推移

売上高、営業利益ともに計画通りの進捗



売上高の増減要因



【参考】為替レート（期中平均）

通貨	15/07 3Q	16/07 3Q
USD	114.42円	118.21円
EUR	137.22円	130.80円

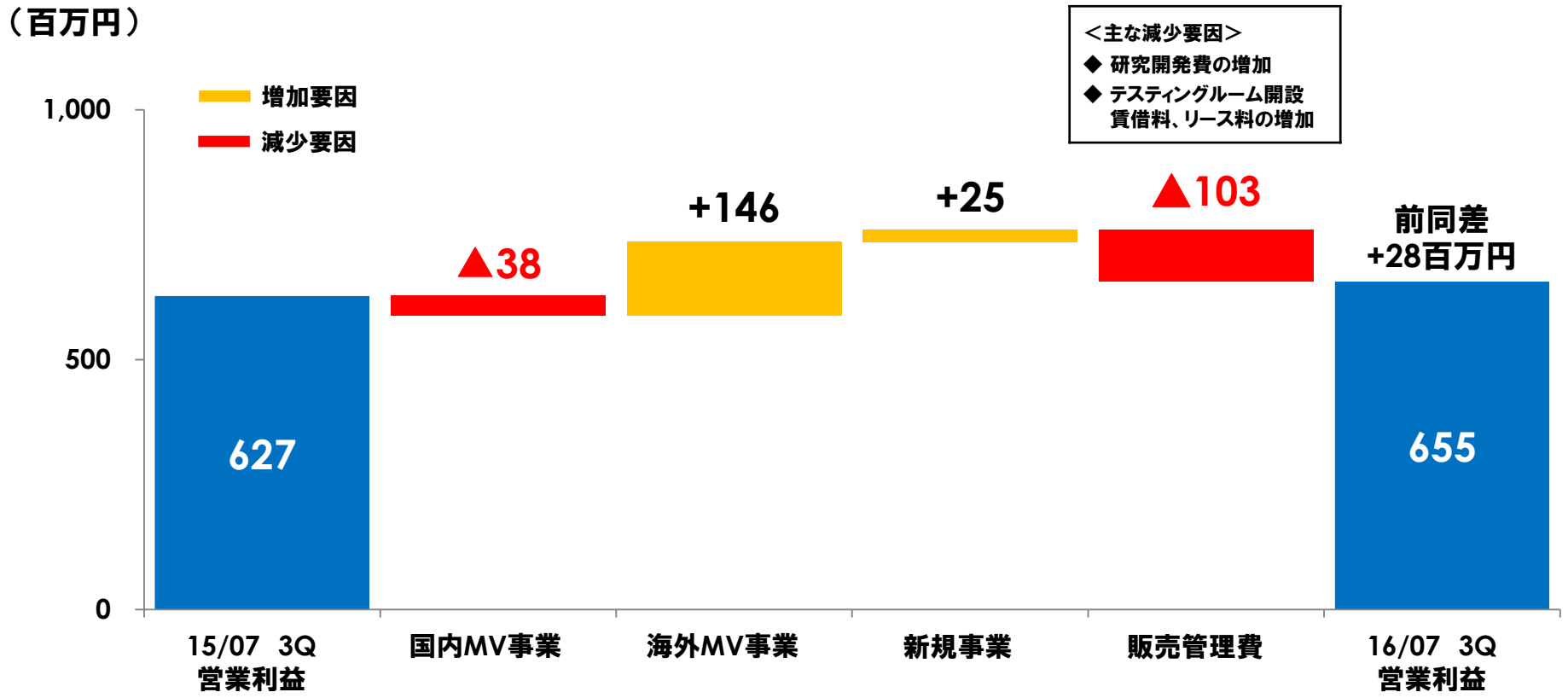
国内MV事業　：　中国関連で減速の影響はあるものの計画通り進捗

海外MV事業　：　北米・中国の減速を好調な欧州がカバー

新規事業　　：　美術館向けの大型案件などが売上に貢献

※ 増減要因の数値は概算

営業利益の増減要因



国内MV事業	：	商品、製品ミックスにより粗利率が低下
海外MV事業	：	収益率改善による増益
新規事業	：	美術館向け等、利益率の高い分野の売上割合が増加
販売管理費	：	将来に向けた研究開発投資、営業強化策による増加

※ 増減要因の数値は概算

貸借対照表（連結）

（単位：百万円）

資産	15/07 期末	16/07 3Q	負債・純資産	15/07 期末	16/07 3Q
現金及び預金	2,216	2,065	流動負債	1,815	1,917
受取手形及び売掛金	1,658	1,892	固定負債	776	617
たな卸資産	1,051	1,213			
その他	190	189			
流動資産合計	5,116	5,361	負債合計	2,591	2,535
有形固定資産	1,021	1,039	資本金	462	462
無形固定資産	140	128	資本剰余金	1,460	1,460
投資その他の資産	385	243	利益剰余金	1,909	2,212
			為替換算調整勘定	84	▲33
			非支配株主持分	155	136
固定資産合計	1,547	1,411	純資産合計	4,072	4,237
資産合計	6,664	6,772	負債・純資産合計	6,664	6,772

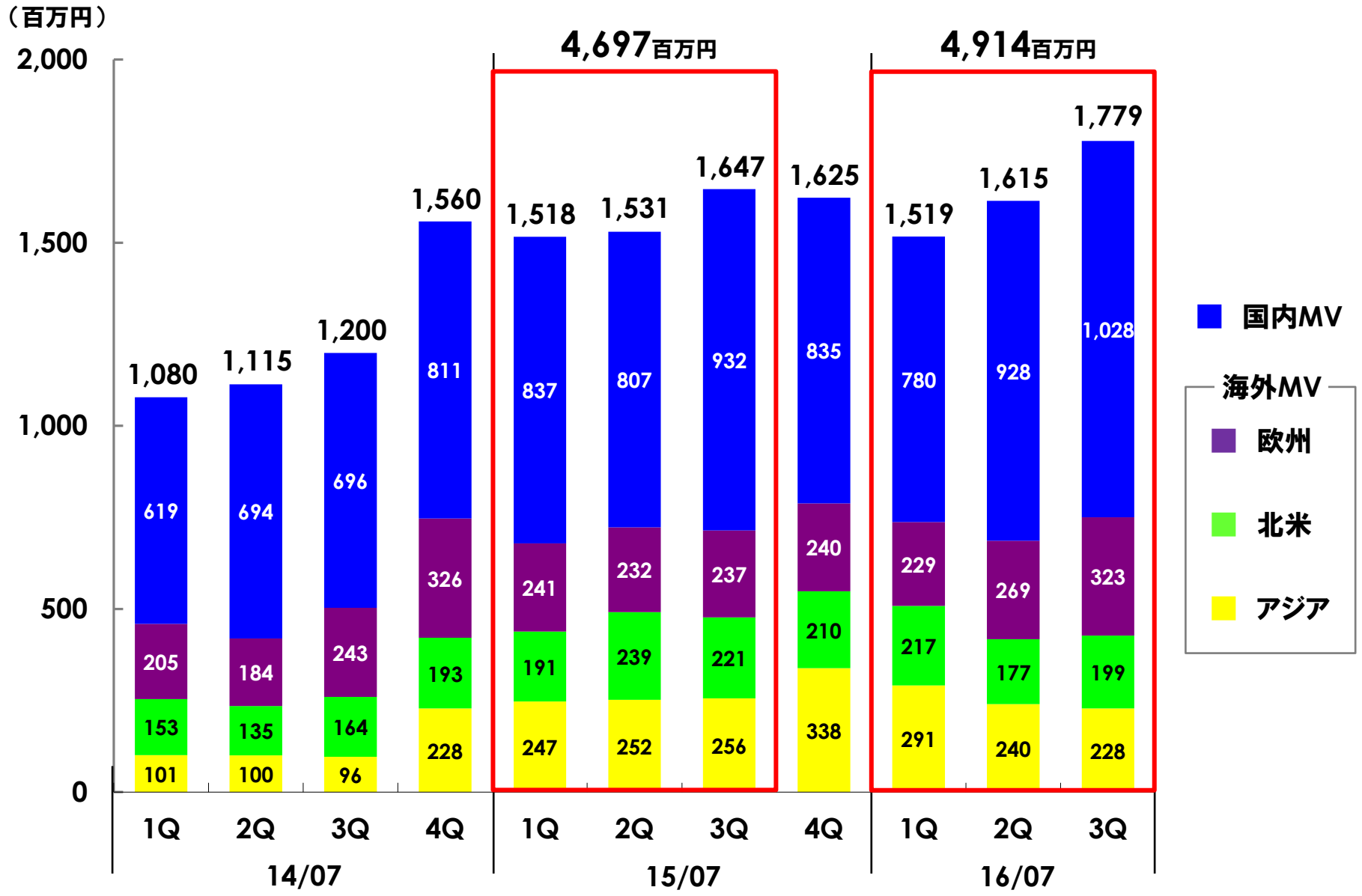
1. 2016年7月期 第3四半期　決算概要

2. 2016年7月期 第3四半期　事業分野別の状況

3. 2016年7月期の成長戦略

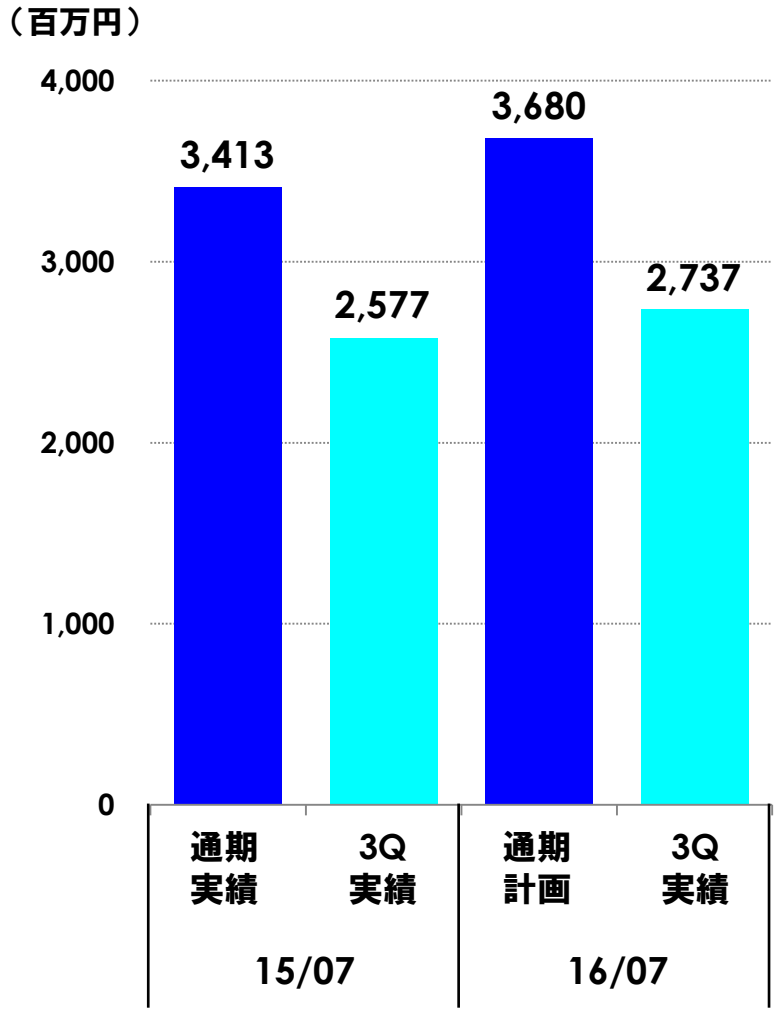
4. 参考資料

MV事業　地域別売上高の推移



国内MV事業

売上高前期比較（累計）

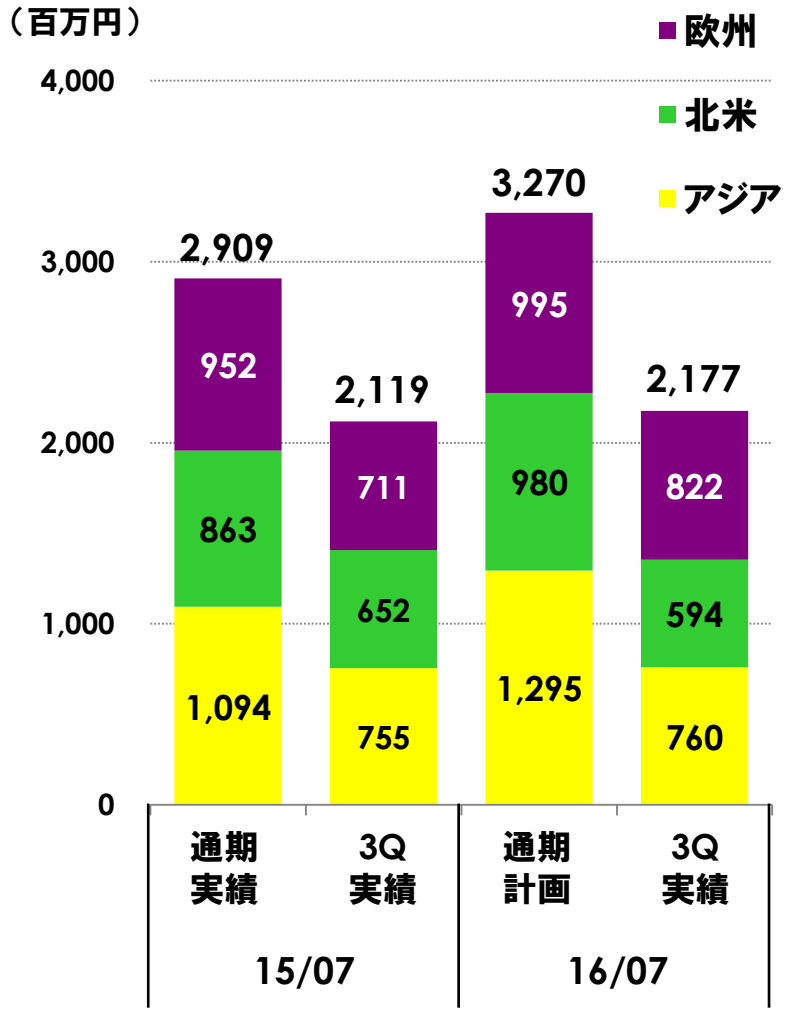


トピックス

- ◆ 設備投資の回復期であった前期と比べ顧客の設備投資はやや足踏み。電子・電気半導体は一時期より回復。新規案件の引き合いは活発。
- ◆ 中国の景気減速により、中国関連に減速感はある。
- ◆ 空白区・混戦区にテスティングルームを開設し、顧客へのサポート体制を強化、訪問件数管理・案件進捗管理など、顧客密着型の営業活動を継続。
- ◆ レンズ・カメラ等の周辺商材を含めたソリューション提案の取組みにより、受注機会が増加。
- ◆ 同業他社・周辺商材を取扱う企業とのアライアンスの取組みを継続して実施。

海外MV事業

売上高前期比較（累計）



トピックス

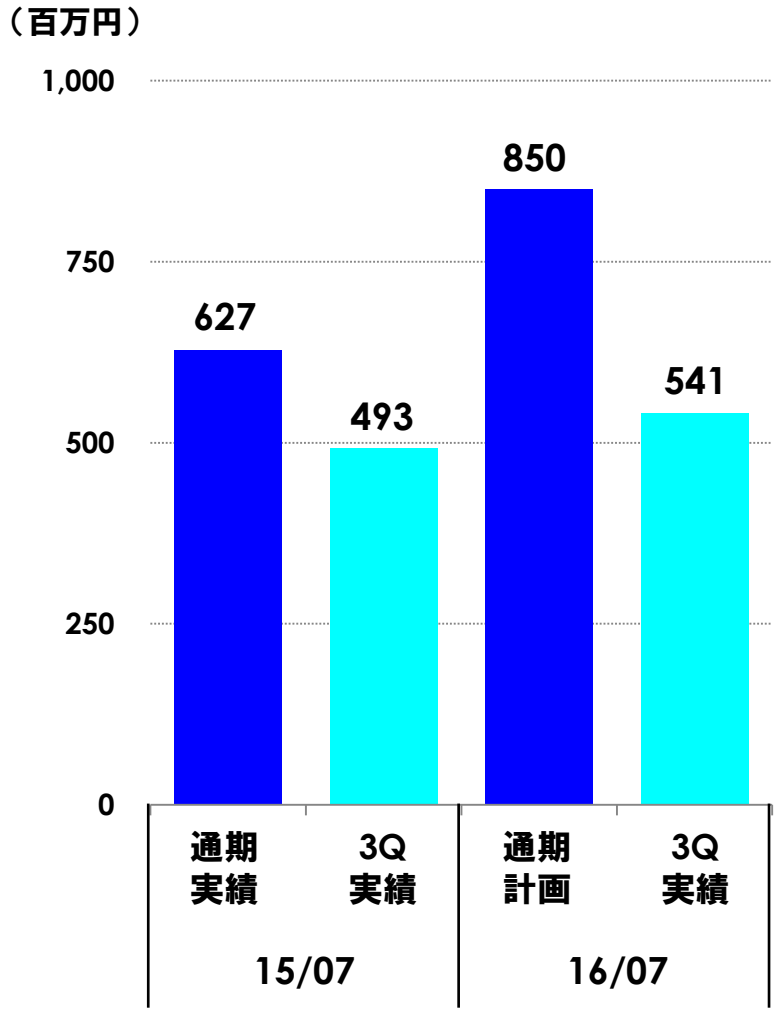
◆ **欧州**
半導体市場の回復基調により、大手顧客向けの売上が増加。
現地で技術スタッフを増強し、顧客へのサポート体制強化と特注対応のスピードアップを図り、大型案件獲得に注力。

◆ **北米**
製造業の多くが設備投資を先送りしたため売上が低迷したが、新規案件はこれまでの営業活動が実を結び増加傾向。
西海岸にテスティングルームを開設し、現地ニーズを取込む体制を構築。
メキシコを含む中南米エリアでの営業活動に注力し、売上が増加。

◆ **アジア**
シンガポールは、堅調に推移。
中国は、景気減速の影響を受けペースダウン。

新規事業

売上高前期比較（累計）



トピックス

◆ デバイスビジネス
- 継続案件は堅調。継続案件から横展開した案件を開発中。
- 医療分野で“自然光LED”の特性を活かした試作開発が複数進行中。
- 海外展開に向けて準備中。

◆ UVビジネス
- 印刷業界向け高出力UV照射器の出荷を本格開始。
- アライアンスによる商材を拡充。提案の幅が広がり、活動が活発化。

◆ その他
- 美術館向けの大型案件が売上に寄与。

1. 2016年7月期 第3四半期　決算概要

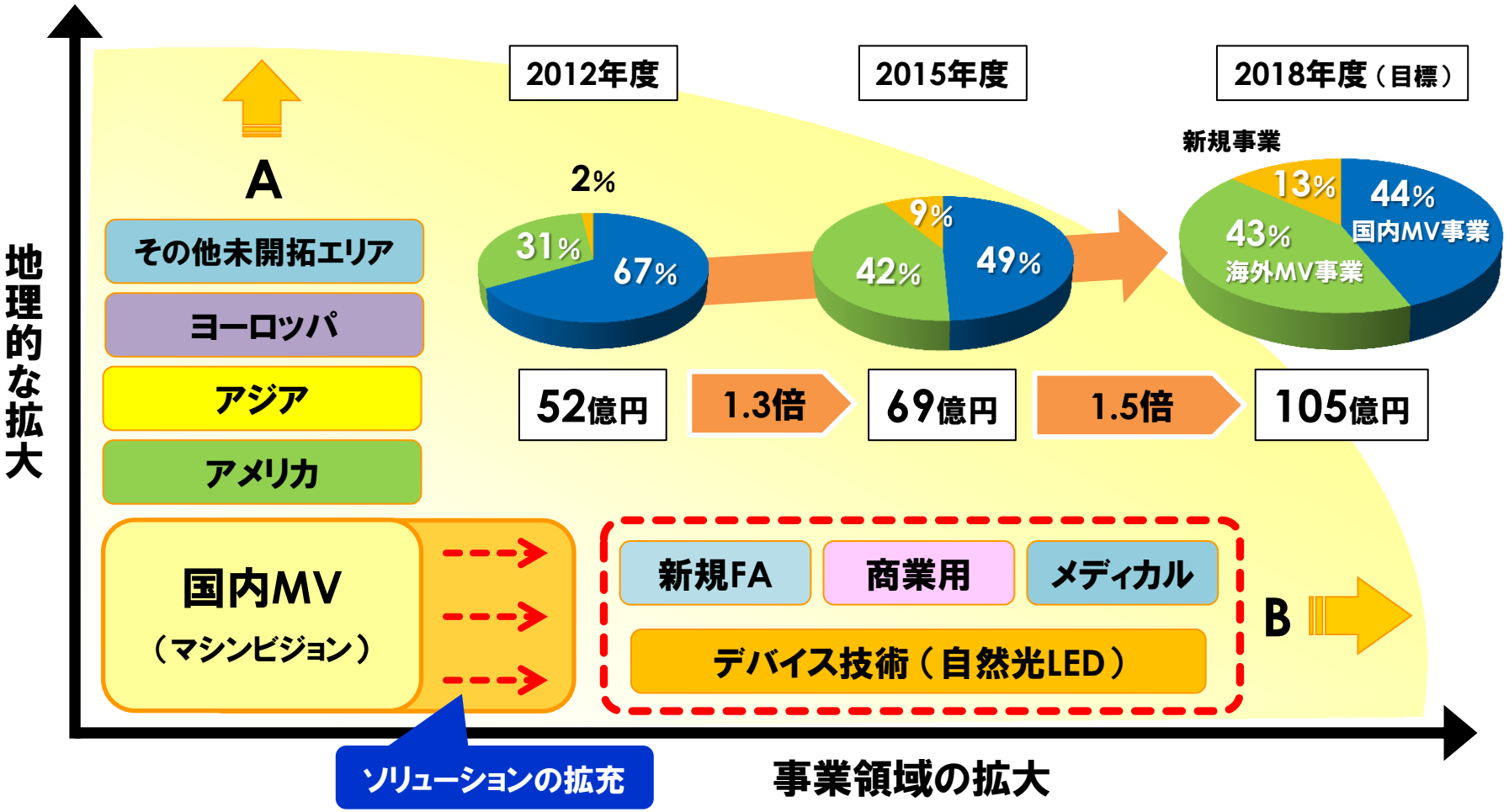
2. 2016年7月期 第3四半期　事業分野別の状況

3. 2016年7月期の成長戦略

4. 参考資料　～会社概要～

事業推進の考え方　事業拡大に向けて

地理的な拡大	MV事業の海外展開
事業領域の拡大	当社の強みを発揮できる事業領域への展開を推進
ソリューションの拡充	事業連携による周辺機材を含むシステムソリューション提案の加速



23期 重点施策の実施状況

重点施策	1. 経営体質の強化 2. 事業基盤の強化 3. 開発力の強化と革新

1. 経営体質の強化　進捗

- ◆ 人材育成によるスキル向上と組織力強化
- ◆ コーポレートガバナンス・コードへの対応

2. 事業基盤の強化　進捗

- ◆ テスティングルームの開設
- ◆ アライアンスの推進
- ◆ 新製品の販売開始

3. 開発力の強化と革新　進捗

- ◆ 新事業展開に結びつく技術シードの発掘
- ◆ 製品の信頼性と開発スピードを高める評価技術力の強化

【重点施策】 事業基盤の強化

テスティングルームの開設

営業的激戦区・未開拓エリアでのサポート体制強化

前期の2拠点開設に続き、2015年10月に3拠点開設

◆ 本厚木（神奈川）　◆ 淀屋橋（大阪）

◆ サンノゼ　CCS America,Inc.

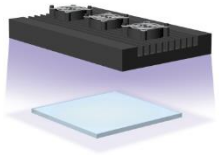
アライアンスの推進

製品ラインアップを拡充し、提案力を強化

◆ 電源の専業メーカー「京都電機器株式会社」と業務提携

当社の高出力UV照射器の仕様に合わせた高出力電源を

京都電機器が開発し、2015年9月に販売を開始



高出力UV照射器
（当社製品）

高出力UV照射器用電源
（京都電機器製品）

◆ 産業用カメラメーカー「株式会社シーアイエス」と産業用カメラを共同開発

2015年12月発売 『小型スマートライティングCoaXPressカメラ』

小型カメラの筐体にLED照明コントローラを内蔵し、カメラの供給電源を活用することで

同軸ケーブル1本でLED照明とカメラを駆動、パソコンからの制御が可能

使用イメージ

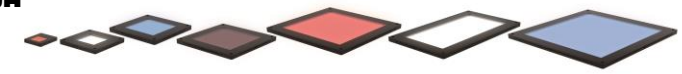
【重点施策】 事業基盤の強化

新製品の販売開始

画像処理検査用LEDフラットドーム照明「LFX3シリーズ」（2016年4月発売）

◆ 従来比3倍の明るさを実現し、サイズ・色のラインアップを追加

従来品のリニューアルに加え、新製品として鏡面状検査対象物の凹凸検出に最適な「ラインパターン照明」を開発



「LFX3シリーズ」製品写真

画像処理検査用パワーフラッシュLED照明・電源「PFシリーズ」（2016年5月発売）

◆ 従来品比較で約7倍の照度を達成、検査用LED照明では業界初となる明るさ

当社従来品に比べ10倍以上のラインスピードに対応可能となり、製造ラインの高速化に貢献

「PFシリーズ」照明

「PFシリーズ」電源

画像処理検査用LED照明「UV2シリーズ」ラインアップ拡充 （2016年2月発売）

◆ 従来品の3倍の放射照度を実現したナロータイプを6機種追加

照明調光機能付き画像処理用LED照明「IUシリーズ」（2016年1月発売）

◆ 欧米でニーズの高い、スマートカメラと一体でのコントロールに対応

ストロボ・オーバードライブ電源「PODシリーズ」（2015年12月発売）

◆ LED照明の細やかな調光コントロールを実現し、製造ラインの多様化に対応

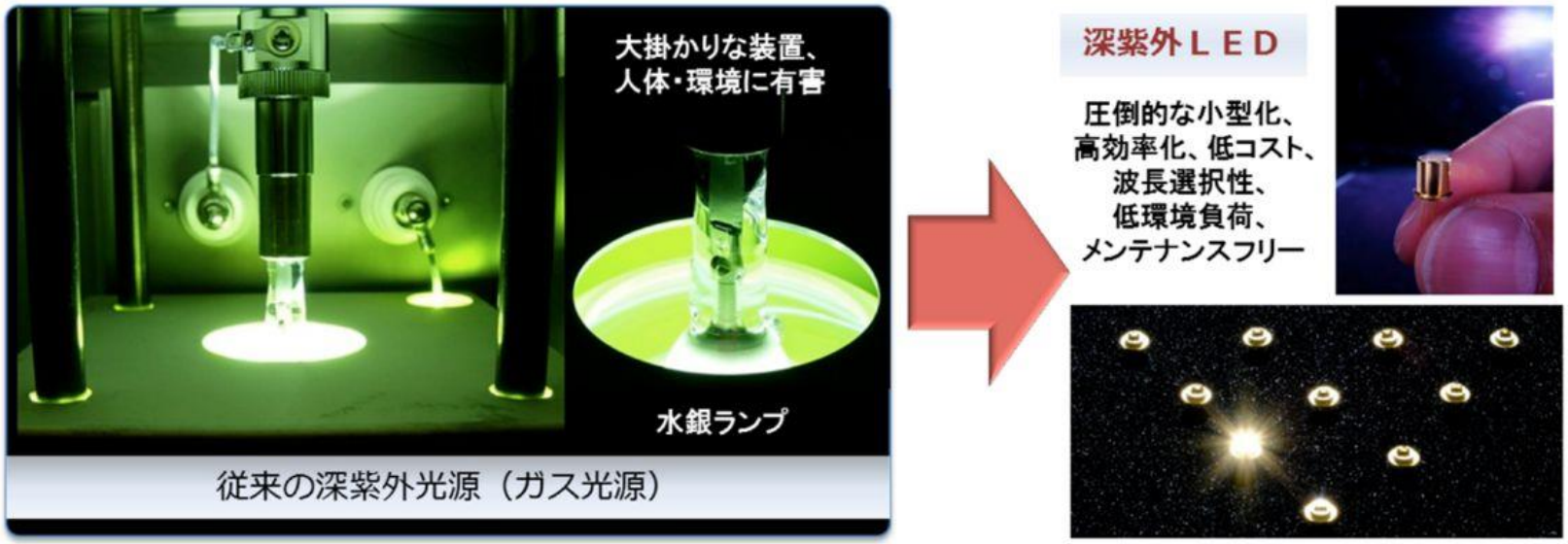
【重点施策】 開発力の強化と革新

新事業展開に結びつく技術シードの発掘

科学技術振興機構のA-STEP（シーズ育成タイプ）に採択

◆ 高出力化を実現する深紫外LED光源技術の開発

情報通信研究機構（NICT）井上振一郎氏との共同開発で、高出力深紫外LEDの実用化を目指す



（出典）国立研究開発法人情報通信研究機構　http://www.nict.go.jp/press/2015/04/01-2.html

従来の深紫外光源から小型・低コスト・低消費電力・自由な波長選択が可能な深紫外LEDへの置き換えが切望されている

2016年7月期 通期業績予想

（単位：百万円）

	15/07 実績		16/07 予想		前年比	
	金額 [A]	売上比	金額 [B]	売上比	[B]-[A]	[B]/[A]-1
売上高	6,951	100.0%	7,800	100.0%	848	12.2%
売上総利益	4,058	58.4%	4,620	59.2%	561	13.8%
販管費	3,284	47.3%	3,700	47.4%	415	12.6%
営業利益	773	11.1%	920	11.8%	146	19.0%
経常利益	760	10.9%	860	11.0%	99	13.1%
親会社株主に帰属する四半期純利益	772	11.1%	540	6.9%	▲232	▲30.1%

2015年7月期は、繰延税金資産の積み増し等により法人税等の負担率が極めて小さかったが、
2016年7月期は、通常の税負担率を想定しているため、親会社株主に帰属する当期純利益は減益となる見通し。

23期　全社スローガン

（2016年7月期）

真心こそが

あらゆる技に勝る

1. 2016年7月期 第2四半期　決算概要

2. 2016年7月期 第2四半期　事業分野別の状況

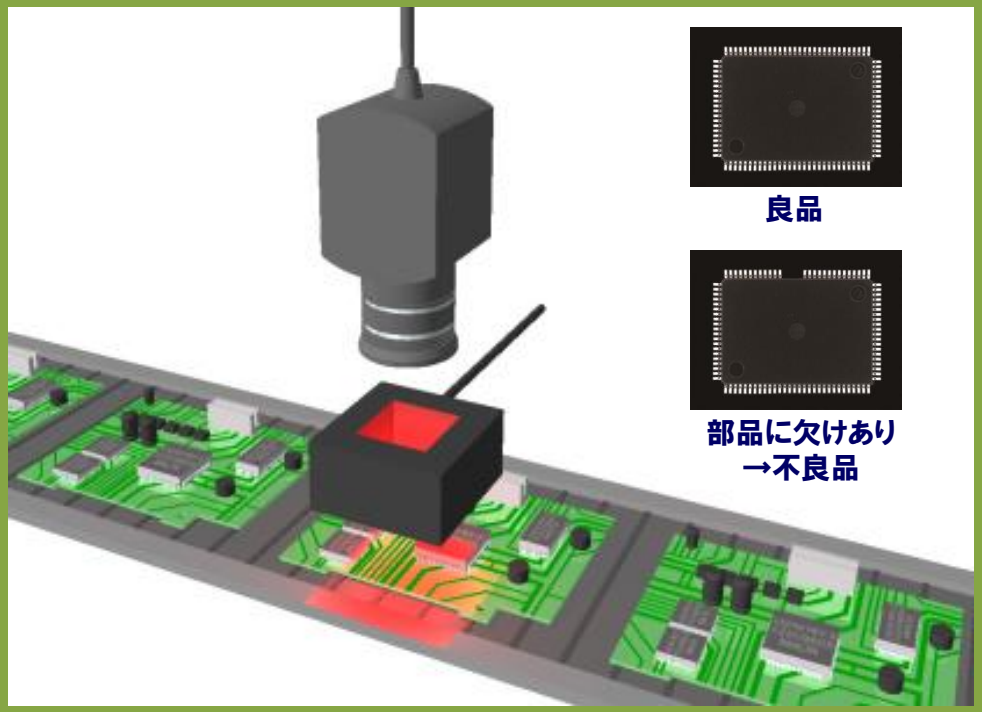
3. 2016年7月期の成長戦略

4. 参考資料

シーシーエスの主力事業

CCSは、画像処理用LED照明市場で国内・海外ともにトップシェアを占める　リーディングカンパニーです。

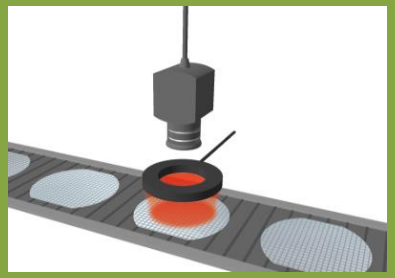
画像処理とは？



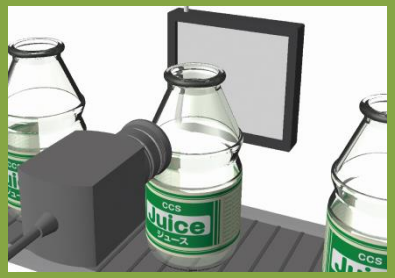
良品

部品に欠けあり
→不良品

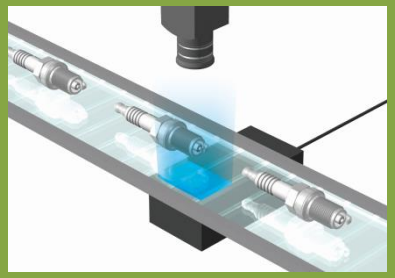
・プリント基板の実装部品欠陥検査



・ウェハーのチリ/ホコリ撮像



・ガラスビンの刻印撮像



・プラグの電極ギャップ撮像

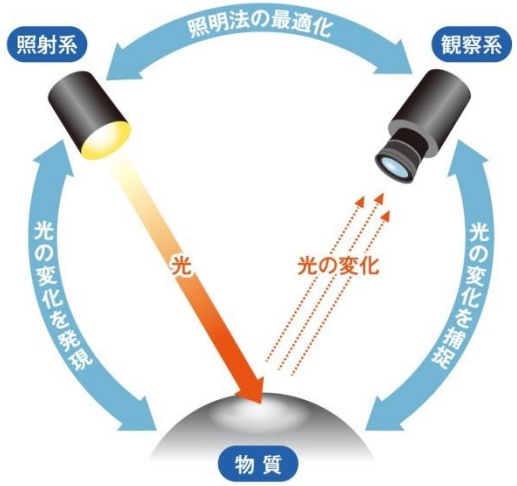
ライティングソリューションの重要性

＜照明法の最適化＞

500円硬貨

流通している硬貨。

実際に検査しているものではありません。



伝搬方向を最適化

見えなかった、

500円の文字を抽出。

同じ対象物でも見え方が全く異なります。

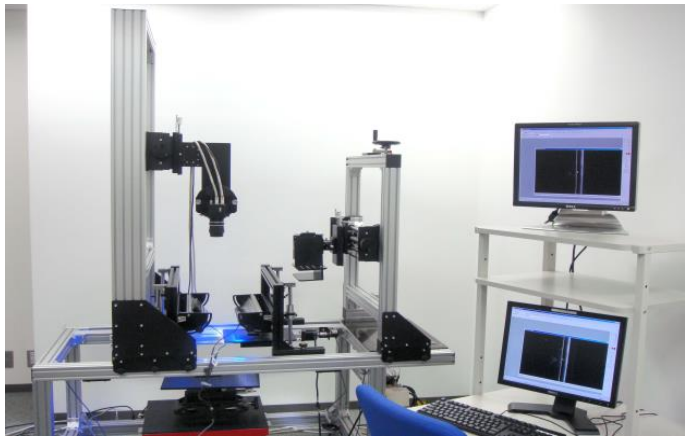
この光の選び方が技術・ノウハウである、

「ライティングソリューション」です。

信頼の実績とサポート体制

- 50,000件以上のワーク撮像実績
- 約10,000機種のカスタム照明の設計・開発・製作
- 数百種類、一万台以上に及ぶ無料貸出機を準備
- エリア実験室、ラインセンサ用実験室を完備

エリア実験室



ラインセンサ用実験室

シーシーエスの事業領域

新規事業

自然光LED

UVビジネス

美術館・博物館
ビジネス

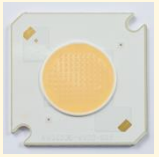
MV事業

マシンビジョン用照明

（エリア照明・ラインセンサ用照明）

メディカルビジネス

アグリバイオ
ビジネス

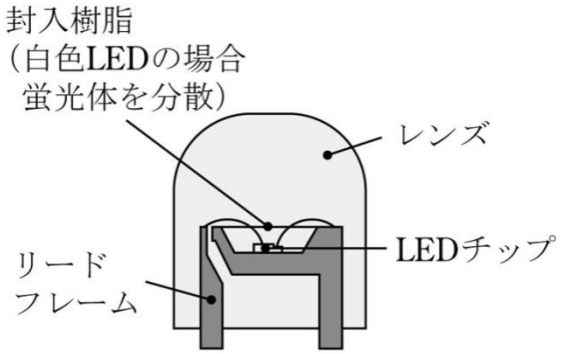


デバイスビジネス

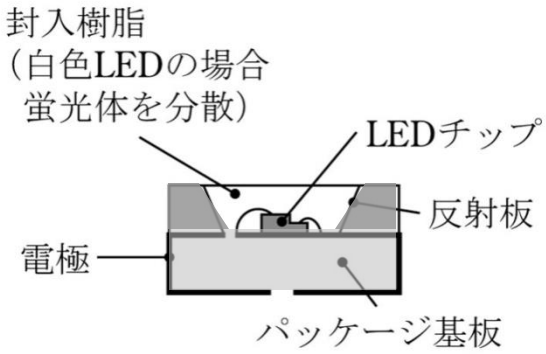
LEDについて

LEDの種類と構造

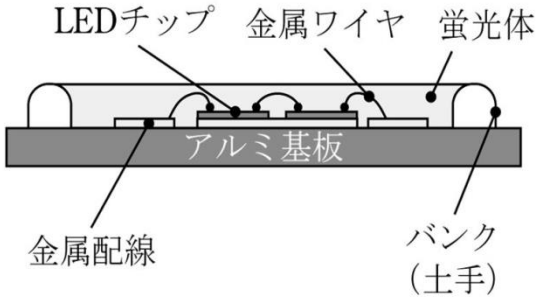
LEDは、LEDチップ、蛍光体、パッケージや封止樹脂など
さまざまな部材を組み合わせ、複雑な光学現象、化学現象、
構造力学現象をハンドリングしてつくりだされています。



砲弾型



表面実装(SMD)



チップオンボード(COB)

＊参照:公益社団法人日本電気技術者協会　電気技術開設講座

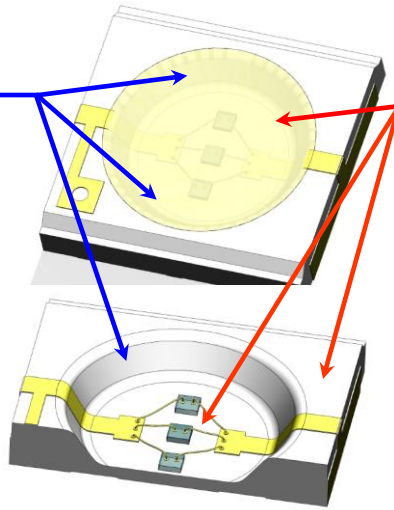
**シーシーエスは、独自の技術で設計開発を行い
オリジナルLEDの開発に取組んでいます。**

LEDデバイス技術

【SMDパッケージング技術】

高効率化

【蛍光体】
材料及び封止方法の最適化
【封止樹脂】
材料特性、表面形状の最適化
【リフレクタ形状最適化】
壁面高さ、角度、高反射率



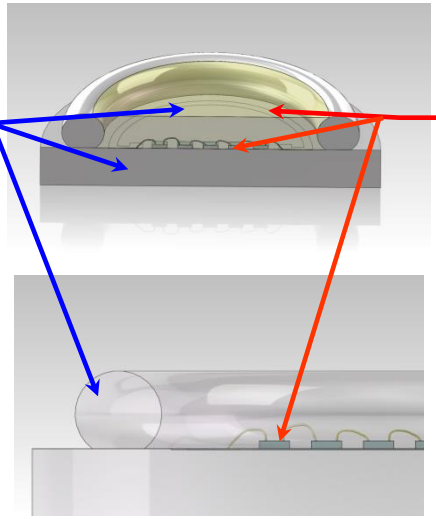
長寿命化

【封止樹脂】
耐熱・耐光性向上
【ボンディング材料】
耐熱・耐光性向上、高放熱性
【パッケージ材料】
高反射率、高放熱性

【COB実装技術】

高効率化

【蛍光体】
材料及び封止方法の最適化
【ダム材】
高反射率、成型化
【基板材料】
高反射率、高放熱性



長寿命化

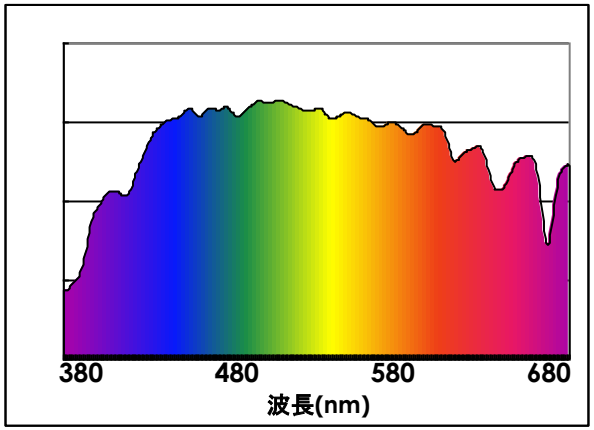
【封止樹脂】
耐熱・耐光性向上
【実装パターン】
狭ピッチ、高反射率
【ボンディング材料】
耐熱、耐光性向上、高放熱性

「自然光LED」とは

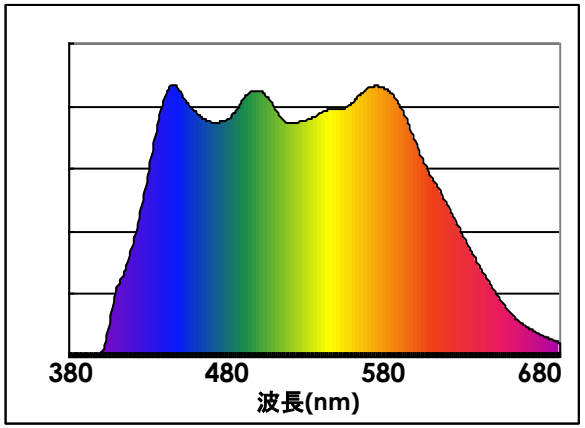
自然光LED

独自に開発した太陽光に近い光を再現する「自然光LED」
色の再現性を標準化・数値化した平均演色評価数*において、
業界最高クラス“Ra98”(相関色温度:5000 K)を達成

太陽光の分光分布　5200 K(AM:10時)

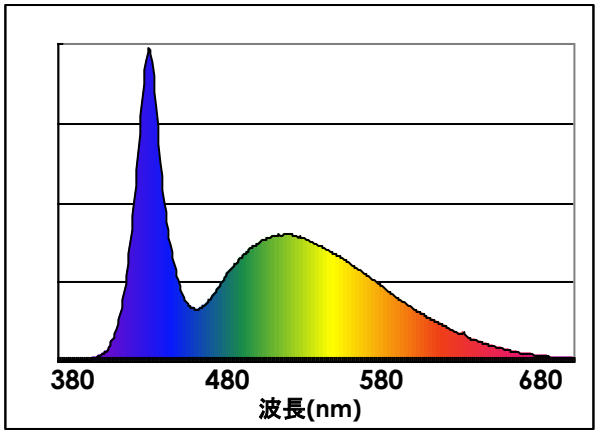


“自然光LED5000 K”の分光分布



太陽光に近い分光分布で物体の色を忠実に再現

一般的な白色LEDの分光分布



青色LEDの青が極端に強い

肌の色も自然に美しく魅せることができます

学会への発表

CIE2015　マンチェスター大会

2015年7月　イギリス
The University of Manchester

▶▶ 高演色白色LED照明下での絵画やカラーチャートの見え方について

近年、美術館などの展示空間において、LED照明が多く導入されるようになった。紫色励起の白色LEDは演色性が非常に高く(単位:Ra)、様々な色の再現性に優れている。しかし、色の見えが作品の印象に大きく影響する美術館でLED照明をより有効に活用していくためには、さまざまな特徴を持った絵画に関するデータを蓄積していく必要があり、2014年7月には、日本画の見えに与える影響を実験によって検証した。しかし、主観的な見えや好ましさは民族的・文化的背景の影響を受けやすいことから、様々なデータを集める必要がある。本研究では、LED照明が絵画やカラーチャートの見えに与える影響を、フランス人および日本人で実験し、絵画鑑賞に適した照明環境の検討を行うことを目的とした。

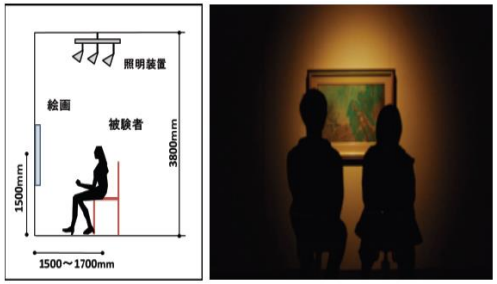


図1. 実験空間

図2. 実験を行ったカラーチャート、絵画

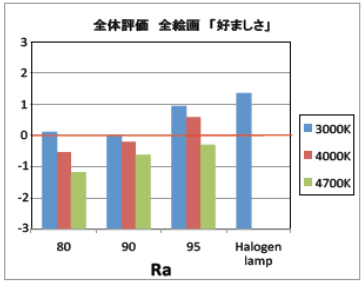


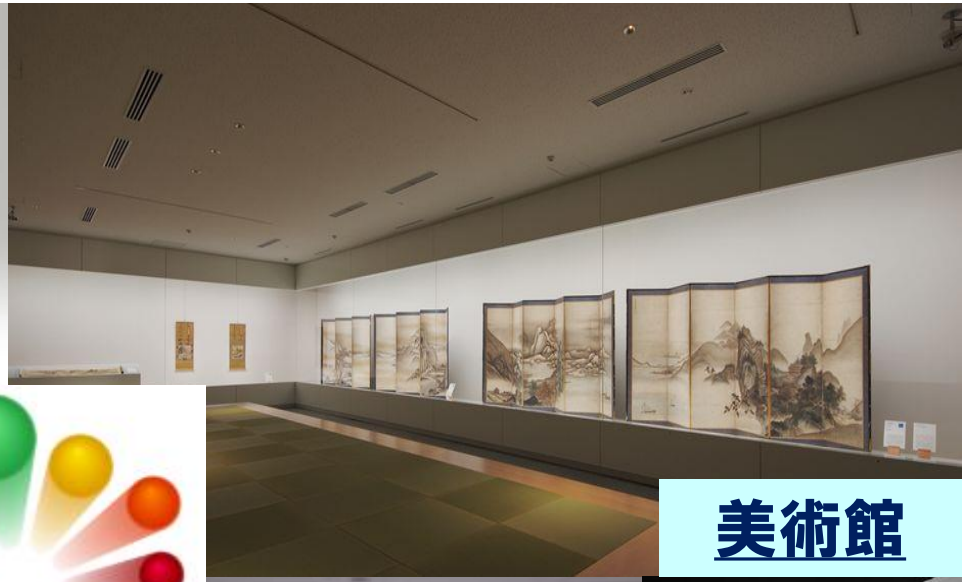
図3. 評価結果

今回の実験では、主観評価実験を行うことで絵画の見え方に影響する評価要素を明らかにした。結果として、紫色励起の白色LEDはフランス人でも日本人でも好ましい見えを得られたが、フランス人は色温度の高い白色LEDを好み、日本人は低めの色温度を好むことがわかった。また、ハロゲンランプとの置換えも充分可能な好ましさも得られることがわかった。今後は、色温度の影響について研究を続けていく方針である。

東京理科大学・吉澤研究室との共同研究

「自然光LED」搭載照明の商品化に注力

顕微鏡



美術館

自然光LED

食品

ホテル・会場

設備投資・減価償却・研究開発費の推移

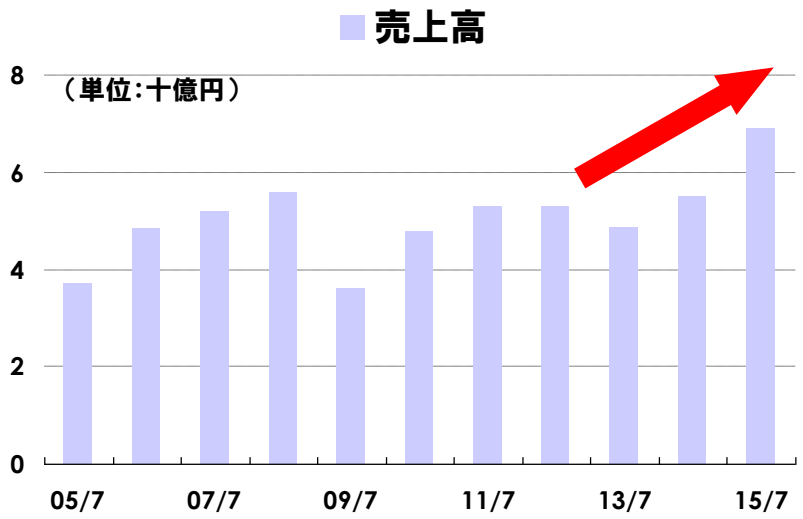
（単位：百万円）

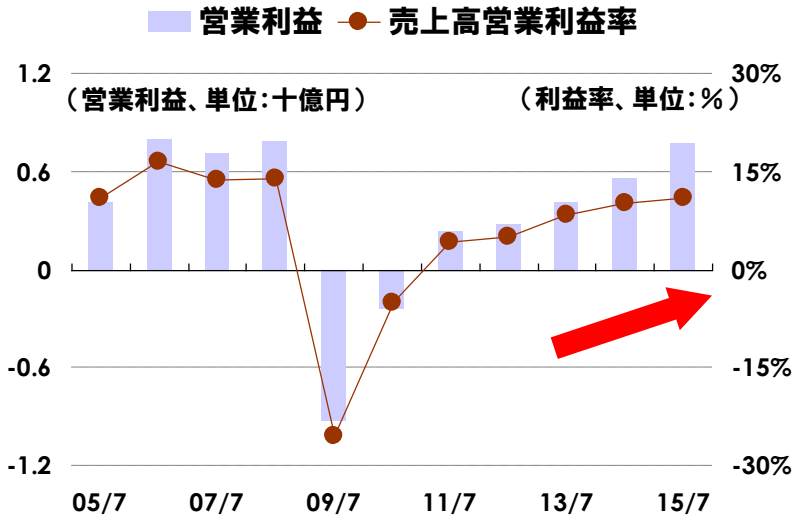
	13/07 累計	14/07 累計	15/07 累計	16/07 3Q累計	16/07 通期計画
設備投資	128	266	153	131	311
有形固定資産	103	160	108	111	268
無形固定資産	24	106	44	20	42
減価償却	124	146	164	114	221

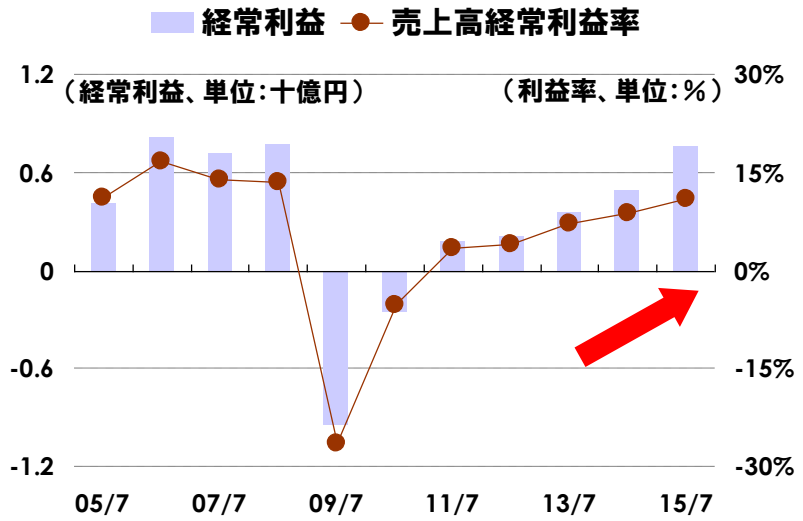
（単位：百万円）

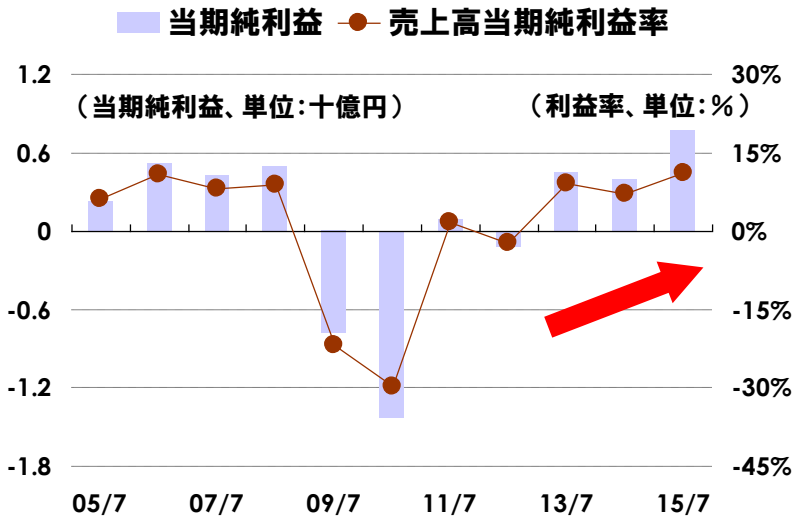
	13/07 累計	14/07 累計	15/07 累計	16/07 3Q累計	16/07 通期計画
研究開発費	449	464	486	404	645
対売上比率	9.3%	8.4%	7.0%	7.4%	8.3%

業績・財務指標の推移（1）

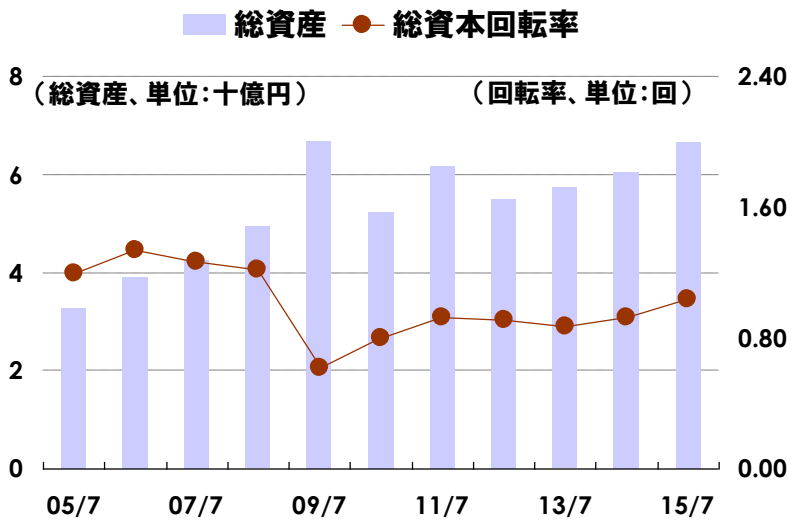

売上高
（単位：十億円）
8
6
4
2
0
05/7
07/7
09/7
11/7
13/7
15/7

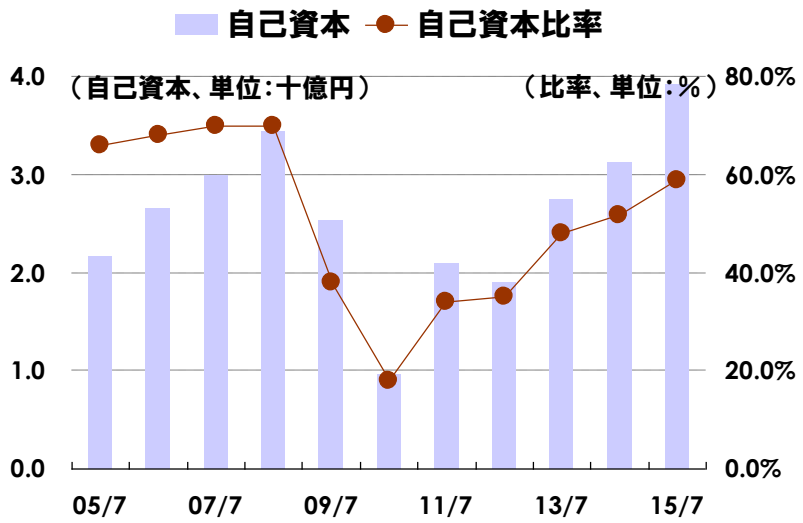

営業利益
売上高営業利益率
（営業利益、単位：十億円）
（利益率、単位：％）
1.2
0.6
0
-0.6
-1.2
30%
15%
0%
-15%
-30%
05/7
07/7
09/7
11/7
13/7
15/7

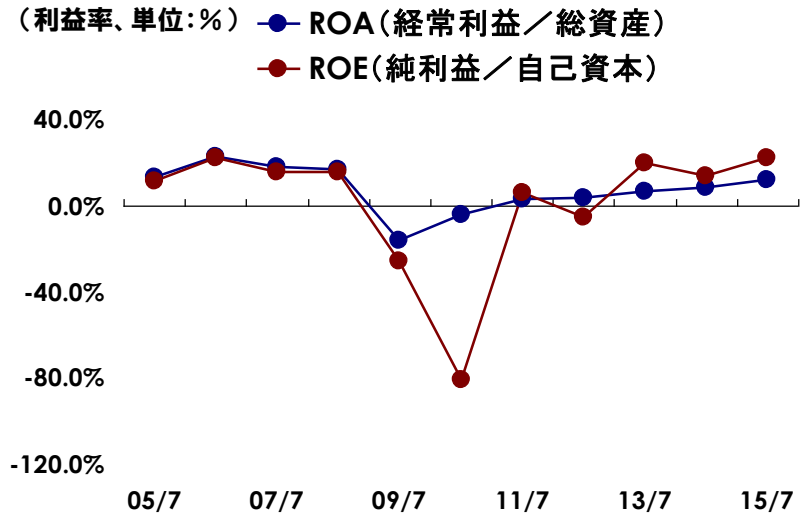

経常利益
売上高経常利益率
（経常利益、単位：十億円）
（利益率、単位：％）
1.2
0.6
0
-0.6
-1.2
30%
15%
0%
-15%
-30%
05/7
07/7
09/7
11/7
13/7
15/7

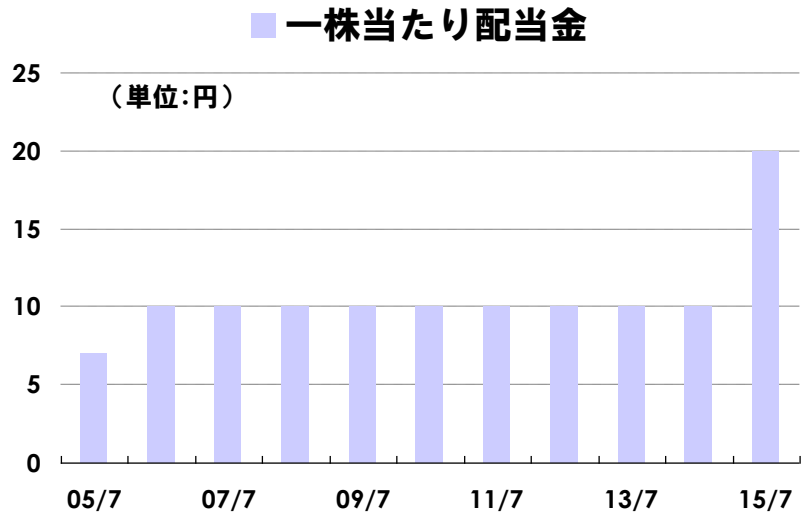

当期純利益
売上高当期純利益率
（当期純利益、単位：十億円）
（利益率、単位：％）
1.2
0.6
0
-0.6
-1.2
-1.8
30%
15%
0%
-15%
-30%
-45%
05/7
07/7
09/7
11/7
13/7
15/7

業績・財務指標の推移（2）


総資産
総資本回転率
（総資産、単位：十億円）
（回転率、単位：回）
8
6
4
2
0
2.40
1.60
0.80
0.00
05/7
07/7
09/7
11/7
13/7
15/7


自己資本
自己資本比率
（自己資本、単位：十億円）
（比率、単位：%）
4.0
3.0
2.0
1.0
0.0
80.0%
60.0%
40.0%
20.0%
0.0%
05/7
07/7
09/7
11/7
13/7
15/7


（利益率、単位：%）
ROA（経常利益／総資産）
ROE（純利益／自己資本）
40.0%
0.0%
-40.0%
-80.0%
-120.0%
05/7
07/7
09/7
11/7
13/7
15/7


一株当たり配当金
（単位：円）
25
20
15
10
5
0
05/7
07/7
09/7
11/7
13/7
15/7

本資料取扱い上のご注意

本資料は投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。本資料に記載されている計画、見通し、戦略につきましては、作成時点において入手可能な情報に基づく将来に関する見通しであり、様々な不確定要素が内在しています。実際の業績は経営環境の変化等により、これら見通しと大きく異なる可能性があります。

本資料に関するお問合せ

シーシーエス株式会社　IR担当
TEL：075-415-8291　FAX：075-415-7724
E-mail：ir@ccs-inc.co.jp